

台湾で見かけた 蛙たち



「台湾ではカエルを食べるの？」この看板を見れば、そう思われても仕方がないだろう。台湾での人気店「**青蛙下蛋**」(チンワーシャーダン)の人気メニューは**カエルの卵**なのだから。しかし、この店はスイーツのお店で、カエルの卵のように見えるのは、「**タピオカ**」(キャッサバの根茎から製造したデンプン)で、それに「**愛玉**」(愛玉子という果実からつくったゼリー)が入っていたり、ミルクをかけたりして食べるのである。「タピオカ」をカエルの卵と称して、日本で売れるかどうかは疑問であるが、台湾ではそんな洒落が受け入れられているようだ。

右側の写真は、おみやげ屋の店内に飾られていた置物で、たくさんのカエルが張り付いている。かなりリアルなカエルである。これには値札が付いており、日本円に換算すると**約800万円**である。これを

買って帰る人がいるかどうかはわからないが(まあ、いないからここに飾られているのだろう)、インパクトとしては十分である。「きゃー、かわいい」というレベルではないことは確かだ。

ところで、ここに登場しているカエルは、何というカエルなのだろうか。「国立台湾博物館」で購入した「**台湾32種蛙類図鑑**」で調べてみた。ヒキガエルの仲間だとすると、あてはまるのは、俗名「**台湾ヒキガエル**」Bankoro Toad であろう。

